

激動の令和3年度 総務常任委員会を振り返る

令和3年度は、知事選直後の2月定例会において副知事人事が否決され、続く特命補佐人事、更には市町村との連携といった議論が県議会運営上の的となり、当初から不穏な空気がただよっていた。

【4月】2回の臨時会と閉会中審査 特命補佐の件で、荒れ模様…

コロナ克服・経済再生特命補佐の概要や想定される勤務状況等、「山形新型コロナ対策認証制度」の運用開始に向けた取組内容等について、率先して質疑・提言。

【5月・6月】市長会・町村長会との意見交換、及び定例会

急遽、総務常任委員会でも市長会と意見交換が実施されることに。知事選の遺恨となるようなものにはしたくなかったために、一般的な意見交換の枠内であることや公開で行われることなどを求めた。が、結局は非公開で実施され、市長会からの事実上の要望を書面にて受領するような場となり、県・市という行政（首長）同士の土俵に議会（委員会）として首を突っ込むのはいかがなものか、という私なりの疑義をぬぐい去ることは最後まで叶わなかった。

一方で、町村長会との意見交換も同様に実施されたが、人口減少や空家対策などについて、多角的な視点で意見交換ができたことは一定の成果であったと感じた。

政局的な議論に左右されずに、今、議論すべきことをしっかり果たす

第4次山形県総合発展計画を策定した後に新型コロナウイルスの感染拡大や豪雨災害の発生など、私たちを取り巻く環境は大きく変



化しているため、現在の統計指標の状況がどうなっているのか、また、どのような視点を持って今後の県づくりを進めていくのかなどを質疑・提言。

【8月】閉会中審査

令和2年度9月定例会での私の質問により、県全体で避難行動要支援者が約87,000人に及び、個別避難計画が未策定である市町村の存在が明らかとなった。コロナ対策を含め市町村職員の業務の複雑化や要支援者の個人情報の提供、支援する側の高齢化など個別避難計画の策定には課題が多いことから、策定を進めるために県の関与を強化すべきと考えるがどうか。また、県行財政改革推進プランにおける県有財産の売却・有効活用について取組内容と今後の課題などについて質疑・提言。

【9月】定例会

山梨県のグリーンゾーン認証は、コロナ後を見すえて中国の大手観光サイトに認証施設を判別できるよう認証マークを掲載している。本県の認証店は県独自のホームページで公表しているが、民間事業者が運営するグルメサイトとの連携を考えるとどうか。また、今年度の職員採用試験の状況、人材確保のために工夫していることは何か、などを質疑・提言。

平山雅之副知事、誕生へ

人事案件が総務常任委員会に係属して審査されるというのは異例であった。委員会での審議が特命補佐に絡む質問が多い中、私からは、あくまで審査すべきは平山氏の件であること、及びコロナによって疲弊する本県経済・産業を建て直すには、商工業の分野に精通されている同氏は正に適任である、と意見。

【10月】閉会中審査

衆院選も含めた最近の年代別投票率の傾向や若者の政治参加を促すための取組状況のほか、期末手当に関する人事委員会勧告は県内民間給与との均衡を勘案することが前提であるが、職種別民間給与実態調査から見えてくる県内企業の状況はどうか。また、本県及び市町村における人事委員会勧告の取扱いの考え方などについてを質疑・提言。



【12月】定例会

キャッシュレス決済の普及・導入状況、交通系ICカード「チェリカ」の概要、公用車の電動化と地域公共交通分野における脱炭素化、外国人向けワンストップサービスの取組状況などについて質疑・提言。

【1月】閉会中審査

オミクロン株による県内第6波の感染状況及び分析・検証について、まん延防止等重点措置の運用が感染実態に即していないのではないか、コロナ禍における県庁の業務継続体制（BCP）、などについて質疑・提言。

【2月】定例会

来年度以降の歳入見通しを踏まえた県財政の中期展望、県有施設の維持管理の考え方、水道事業の耐震化の状況、本県への移住者の状況と関係人口創出の取組み、国の新たな雪対策交付金の活用、私立学校の授業料軽減補助の拡充内容（世帯年収910万円以上の多子世帯が対象に）、今後の本県における公共交通政策などについて質疑・提言。

大瀧洋総務部長をはじめ、公私ともにご指導を賜った関係当局職員へ心から御礼を申し上げます（【写真左】後藤財政課長（総務省）【写真右】酒井企画調整課長（国交省）、いずれも県出向を終えて栄転された）。



緊迫のウクライナ情勢 本県での支援の輪 広がる

ロシアによるウクライナ侵攻に伴い、平和の尊さをはじめ、我が国に置き換えて考えることが多くなりました。県内でも募金活動等の支援が広がるなか、3月初旬に知事に陰ながら進言しておいた避難民への支援について具体的な検討が進められています。（県国際交流協会に相談窓口設置、令和3年度末時点で約20戸の県営住宅を確保）。

山形県動物愛護管理計画改定へ 犬・猫の実態はいかに!?

【致死処分数の減少】

犬 93頭 (H24) → 1頭 (R2)
猫 2,235頭 (H24) → 188頭 (R2)
※犬の致死処分数は、全国最少レベル。

【猫の苦情相談件数の増加】

610件 (H26) → 1,717件 (R2)
※ちなみに、私は犬も猫も好きです。

ヤングケアラーとは!? 皆さんと一緒に考えたい

3月、山形大学模擬裁判実行委員会の皆さんが定期公演の題材にヤングケアラーを取り扱いたいとのことで取材を受けました。ヤングケアラーとは、一般に、「本来は大人が担うと想定されている家事や介護、家族の世話等を行っている18才未満の子ども」とされています。ですが、法令上は定義がありません。2月に、国民民主党が実態調査と支援を進めるため「児童福祉法の一部を改正する法律案」を国会に提出したことで話題になりました。県でも、今年度からヤングケアラーの発見・支援に関する研修を実施していく考えです。

私としては、法令上の定義がないからこそ、過度の情報発信や、外形的な要素のみで判断し誤ったレッテル貼りにならないように、しっかりと実態を見極めていく必要があると考えています。



村山市櫛山発、ヒトデの化石!! ぜひ、県立博物館へ

昭和46年に開館し、老朽化に伴い新館建設の検討も進められている県立博物館へ会派で視察。観覧ブース入口すぐに展示されているのが大正6年（1917年）に村山市櫛山の山中の三沢川で発見されたヒトデの化石です。約1,200万年前のものでこれほど大きなヒトデの化石は国内でも珍しく、形態も大変よく保存されており県指定天然記念物となっています。とりわけ、大倉地区の方はお存じかもしれませんが、これを機に、ぜひ、県立博物館へ足をお運びいただければと思います。

